

「保険でより良い歯科医療を」愛知連絡会が第6回総会を開催

鼻呼吸で記念講演も



協会歯科部会が参加する「保険でより良い歯科医療を」愛知連絡会は、五月二十七日(日)午前十時から十二時まで、協会伏見会議室で第六回定期総会を開催し、百二十二人が参加した。

総会は、まず大藪憲治会長が二〇一一年度の活動について、「保険で良い歯科医療の実現を求める請願署名に積極的に取り組み、署名数は目

標には届かなかったが、五万三千六百十一筆を集め全国の運動を牽引した」と報告した。続いて、江原雅博副会長が二〇一二年活動方針案を提案。生活保護費が増えている状況も紹介しながら「雇用や生活が苦しい時こそ医療や社会保障の充実が必要。愛知連絡会では、自治体に歯科医療改善の意見書採択を求める運動や、出前講座、電話相談などの市民を対象とした企画に取り組む」と報告した。

活動報告・方針案は、決算・予算案、役員・世話人体制案とあわせ、一括して採択された。

記念講演は「鼻呼吸から始まる健康生活」と題し、医師の今井一彰氏(福岡市・みらいクリニック院長)が講演した。

今井氏は、「本来、口は食べる所であり、息をするのは鼻である」と述べ、口呼吸の弊害や鼻呼吸の利点などを説明した。また、鼻呼吸には舌の位置が大切であると、自身が推奨している「あいうべ体操」を紹介。体操は一分間に十回、一日三十回程度でよく、治療費もかからないと説明した。そしてアトピー性皮膚炎や喘息、掌蹠膿疱症、関節リウマチなど日常診療で症状が改善した患者の事例を報告した。

参加者から講演内容への質問や感想が出されるなど、関心が高かった。

(上)

